

第3回 鹿島市まち・ひと・しごと創生会議 会議録

平成 27 年 10 月 9 日(金)14:00～15:30 庁舎 5 階大会議室

○報告

委員の交代 PTA 連合会 吉村さつき ⇒ 尾崎正見

代理出席 社会福祉協議会 諸上友美 ⇒ 八谷順子

佐賀県 實松尊徳 ⇒ 片渕芳典

欠席 森林組合 中島清光、漁業協同組合 山下ゆかり、公募 前田邦昭

①人口ビジョン・総合戦略原案に対するこれまでの意見等について

事務局説明

(省略)資料1

②地方創生に関する市民政策提案について

事務局説明

(省略)資料2

③人口ビジョン・総合戦略原案の一部修正について

事務局説明

(省略)資料3

●意見交換、質疑応答

【山口委員】(公募)

どのイベントを想定しているのか。花酒まつりか。他にそのようなイベントがあるのか。(資料3 P3 NO.12)

《事務局》

酒蔵ツーリズムのこと。花酒まつりを想定している。

【高松委員】(老連)

日経新聞では概算要求で 7700 億円とあったが、ここには 1100 億円程度とあるが、その違いは何か。(資料1 P2 NO.14)

《事務局》

7700 億円というのは地方創生全体の額だと認識している。1100 億円というのは総務省が交付金事業を新たに立ち上げており、その額が 1100 億円で、市町村に平成 27 年度配分されており、鹿島市にも先行型と消費喚起型ということで1億程度の配分がなされている。各省庁が地方創生についての予算を持っているが、その総額が 7700 億円だと考えている。

【向井委員】(文化連盟)

異世代交流は各地区で考えているのか。(資料3 P3 NO.13)

《事務局》

老人クラブ単位での交流を考えている。各地区の老人クラブと各地区の子どもクラブでの交流で、例えば花いっぱいであるとか、事業を通しての交流を考えている。

【向井委員】(文化連盟)

予算は付いているのか。

《生涯学習課》

この事業は保険健康課と生涯学習課で今年から取り組んでいる事業で、今年はさが段階チャレンジ交付金を活用して歴史等の講座を行い、形になったら予算化して進めていこうと考えている。

【向井委員】(文化連盟)

異世代間交流の中で、白石の方で 2003 年から子ども塾をされている。朝早くから座禅をやったりであるとか、朝ご飯を作ったりであったりとかされていると聞いている。それは地区の代表者が長く行われている。

鹿島の中では昔から日曜学校があっている。ただ 1 回のイベントというより、継続して地に足をつけた取り組みが大事ではと思う。思いつき 1 回で終わるのではなく、何か全体にわたった方がよいと思うがいかがか。

《市民部長》

そのように協力して行いたいと考えている。異世代交流は目玉事業したいと考えているので、ご提言のように行っていけるようにしたい。

【高松委員】(老連)

老人クラブとして小学校と何かないと運動をしている。今、明倫小から囲碁の指導をお願いしたいと要請がきている。いつがいいのかなど校長先生と詰めなければならないのでここで発表はできないが、何とかお役にたちたいと考えているのでよろしくお願いいたします。

【小川委員】(公募)

この間も質問した。インバウンド受け入れ態勢にかけて質問したが、今度は基本戦略 11 の道の駅をはじめとした観光関連施設の整備・充実というところで、百貫と箱崎のところに歓迎の看板を建てられないかと思う。計画してもらったらと思う。

《産業部長》

道の駅と百貫橋のところにあったと思う。平成 16 年度に設置したが、老朽化により危険であるということで撤去している。その後、観光サインということで行っている。前もお答えしたが内部で、早々に検討させていただくこととしたい。

④議題

(1)鹿島市人口ビジョンの決定について P1~34(資料4)

●意見交換、質疑応答

【山口委員】(公募)

推計値と今でているが、鹿島はこれでいくというはっきりとした数値はあるのか。これを達成したいとかいう目標値は。

《事務局》

P25 のパターン 3 に鹿島市独自推計の細かな設定を乗せている。P26 にその表を掲げている。鹿島市の独自推計は C パターンで考えている。平成 22 年度の国調を実績値として設定し、最終的に 2060 年に 20705 人ということで瀬っしてしているが、社人研の推計で行けば 16746 人と推計をされている。ここよりも総合戦略の施策を行っていくことにより、社人研との差 4,000 人をなんとかキープし、増というか減少を緩やかにしたい。

【山口委員】(公募)

これを目標ととらえていいのか。

《事務局》

これをやるから何人増えるというのはないと思う。総合戦略で施策を行うことで仕事を増やし、若者に住んでもらい、

子どもを産んで育ててもらい、そして仕事を創出するという好循環を生み出せれば、このような人口減少カーブを緩やかにできるということであるので、目標は施策を遂行してここを目指していくということが目標になる。目標ととらえてもらってよい。

【高松委員】(老連)

P25 に県を上回る 2.1 とあるが、どういった設定をしたのか。いい方法があったのか

《事務局》

P10 に合計特殊出生率の推移で県よりは上、人口減少が緩やかになるように設定している。また、P27 の自然増減と社会増減の推移を用いて設定している。

出生率 2.07 であったなら、自然増減がプラスマイナス 0 になり自然増減の中では人口が減らないと考えてもらってよい。

【山口委員】(公募)

高齢者の死亡率がここ数年上がると思う。このような中で 2.07 より高く設定しなくてよいのか。

《事務局》

高齢者の人口については、委員のおっしゃる通りある時期まで増えることとなる。P20 人口減少で鹿島市がどの位置にあるかというものがあるが、将来的に鹿島市の高齢人口が減少するという時期に入っていくので、設定はそのままよいと考える。

【山口委員】(公募)

データでは 30 年の間に高齢人口比率が落ち着いてくるとなっているが、この 30 年の間で 2.07 の設定が適正かというのが私の問題提起なのだが、出生数はすぐ結果が出ると考えている。即効性があると思う。出生数を増やす政策すれば、10 年後と言わずもっと早く数値が出せるのでは。

《事務局》

P9 に出生数と合計特殊出生率の推移があるが平成 7 年と平成 25 年では出生率は 1.8 と変わらないが、出生数は平成 25 年度が少ない。これは子供を産める世代を増やさないと出生率が上がらないということになることを示していると分析している。山口委員がおっしゃる出生数を増やすということと、子どもを産める世代をなんとか鹿島に定着させることの両方を行っていかないと厳しいと考えている。

【山口委員】(公募)

出生数と出生率を上げるために子供を産もうという気持ちを醸造するような施策として展開してはどうか。

《事務局》

そこも含めて検討をしている。具体的な施策が出てきたら、検証も行うこととなっているので、そこで見直し、もしくは新しく追加することも考えている。

【会長】

人口ビジョンについては、今回が最終的な話し合いとなっている。山口委員にお尋ねだが、今ご指摘の件はこの数値を変えてほしいということなのか、施策を充実してほしいということなのか。

【山口委員】(公募)

最初から 2.1 にしてほしいが、現実的には難しいと思うということで回答をもらった。現実的には難しいと思うが、早く達成できるように頑張ってください。

【会長】

山口委員の意見については事務局で話し合いをしていただいて、成案にするということでよろしいか。
それでは人口ビジョンについてはこれで成案として承認いただける方は拍手をお願いする。
－拍手－

【会長】

賛成多数ということで成案として承認する。(案)の削除をお願いする。

(2)鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の決定について P35～62(資料4)

●意見交換、質疑応答

【山口委員】(公募)

酒蔵ツーリズム関連だと思うが、秋の蔵々まつりやはしご酒とあるが、市は具体的に盛んにしようという考えがあるのか。

《産業部長》

秋の蔵々まつりやはしご酒は、酒蔵ツーリズム事業を通年で行うことにより集客を図ろうということで実施している 1 つである。関係団体と連携をして取り組んでいきたいと考えている。

【山口委員】(公募)

夏の鹿島おどりを品よく、レベルを上げて市外にも知らしめて行けるようにしてほしい。鹿島鍋島竹あかりが 10 年くらいで途絶えてしまった。武雄、小城は竹あかりがどんどん有名になって観光客が集まっている。なぜ鹿島は途絶えてしまったのか。復活させるということは考えてないのか。

《産業部長》

鹿島おどりについては、実行委員会で一生懸命やってもらっている。定期的に鹿島おどり委員会を開催しているが、その中ではお客様に楽しんでいただけるように話し合いをしていただいているので、市としても支援を行っていききたいと考えている。鍋島竹あかりについても諸事情があり中断している。市としてもどなたがやられるのかというのが一番の問題と考えているので、市としても支援をしていききたいと考えている。

【山口委員】(公募)

竹あかりについては、竹の有効活用も含めて、まちおこしも含めて復活させてほしい。

《産業部長》

意見として聞いておく。

【高松委員】(老連)

佐賀市では 3 年間通勤費の助成、大町は空き家に定住した人には 100 万円とあるが鹿島でもやったらどうか。

《副市長》

この計画は検証と見直しを繰り返しながら鹿島市に合ったものにしていくことが趣旨だと考えている。よそのやられていることは研究をしている。その中で鹿島市に合うものであれば実施していく。効果と財政面を含めて考えていきたい。

【山口委員】(公募)

9月に毎年、伝承芸能フェスティバルが行われているが、鹿島は各地区に伝統芸能を持っているが、年1回、各地区で対抗したらどうか。競争をしたらレベルも上がって、地域の活性化にもなって、観光客も押し寄せてくると思う。

《副市長》

鹿島は県内でも有数の伝承芸能が残っている地域で、市として道具は古くなるので文化庁や市単独、宝くじの補助金などで道具の更新で支援をしている。一斉にするとすると準備やまとめていくのをどうやるかなど課題が多いと思う。今後、勉強させていただくこととしたい。

【会長】

委員の皆様から貴重な意見をいただいた。今後の施策に活かして行ってほしい。

改めて、お諮りするが鹿島市まち・ひと・しごと創生総合戦略について成案して決定してよろしい場合には拍手をお願いしたい。

－拍手－

【会長】

賛成多数ということで成案として承認する。(案)の削除をお願いする。

⑤今後のスケジュール

第4回鹿島市まち・ひと・しごと創生会議

平成28年3月中

(内容)平成27年度実施事業の事業評価及び検証